

# 文化財を訪ねて

## —見てある記—

### 川田谷地区のささら獅子舞

桶川市には建造物や工芸品などの有形文化財のほかに、民俗芸能などの貴重な伝承資料があり、県や市の無形民俗文化財として指定し保護しています。ささら獅子舞は四種が指定されていますが、うち三つは川田谷地区にあり特異な存在となっています。ささらとは、四隅に立つ「ささらっこ」の持つ竹製の楽器で、ささらの音に合わせて三頭の獅子が舞うので三匹獅子舞ともいわれます。

松原の獅子舞では、拜殿前の舞場の四隅にダシ（万燈）と幟（のぼり）四本を立てます。この四本を巡らすように注連縄（しめなわ）を張って、神聖な舞場を区画してあります。ダシの上部には「五穀豊穰」「天下太平」と墨書した箱形の灯籠（とうろう）を飾り、灯籠の上には五色の短冊（たがひ）



松原の宰領



前領家の宰領

冊（たがひ）を付けた十二本の割り竹（わぎたけ）が下がった瓢箪（ひょうたん）形の籠（かご）が付いています。ダシの一本には頂上に丸い「金紙の太陽」、左の一本には「銀紙の月」が付き、対になっています。ダシの脇には高張提灯（たかちやうてん）を立てます。日、月、三田原の獅子舞のダシと幟（のぼり）にもあり、ダシの日旗は「太陽に八咫鳥（やたがらす）」、幟（のぼり）の月旗は「三日月に白兔（うさぎ）」です。飾りはこの日と月が主役で、花などのその他の飾りやささらっこのかぶる花笠（かぶさ）と併せて、天国を象（かたど）っているでしょう。日・月・天の臨席（りんせき）の元で、水天（みづてん）である獅子が舞うというのが、獅子舞の意味なのではないでしょうか。

もう一人、宰領（さいりやう）とか猿若（さるわか）などと呼ぶ登場人物（でじやうぶつ）があり、奇怪な面（めん）にかぶり物（かぶりもの）、腰（こし）にはサイコロ付きの瓢箪（ひょうたん）を下（くだ）げています。猿若（さるわか）は獅子舞（ししうまい）のリーダーであり、宗教性（しゆじやうせい）を漂（も）わせて山の神（かみのかみ）とも呼ばれています。前領（まへりやう）家の宰領（さいりやう）が着（き）ている紺（くろ）の法被（ほろび）には、背中（せなか）に大きく竜（りゆう）が描（えが）かれ、下部（しも）には波（なみ）しぶきと水玉（みずたま）が描（えが）かれています。三匹（さんびき）の獅子（しし）の水引（みずひき）には五色（ごしき）の水玉（みずたま）が描（えが）かれ、獅子（しし）とはいっても出自（しよじゆ）が竜（りゆう）であり、水の神（かみのかみ）であることを物語（ものがたり）っています。

獅子舞（ししうまい）は宰領（さいりやう）の四方固（しほうかた）めから始まり（はじめ）ます。松原（まつはら）では宰領（さいりやう）が登場（でじやう）し、



大豆（まめ）を出（だ）してまきます。次（つぎ）いで三頭（さんづ）の獅子（しし）の四方固（しほうかた）めがあり、最後（さいご）に雌獅子（めしし）を大獅子（おおしし）・中獅子（なかしし）の二匹（ふたびき）の雄獅子（おしし）が奪（うば）い合う余興（よきん）的な雌獅子（めしし）隠（かく）しを舞（ま）います。松原（まつはら）と三田原（さんでんげん）の獅子（しし）の特徴（ていしゆう）は、三頭（さんづ）の獅子（しし）が頭（かぶ）に角（つの）と宝珠（ほうしゆ）の両方（りやうほう）を頂（かぶ）っていることです。大獅子（おおしし）・中獅子（なかしし）・雌獅子（めしし）で面（めん）の色（いろ）や角（つの）の形（かたち）が違（ちが）いますので、よく観（かん）察（さつ）するとよいでしょう。上演（えんげん）の場所（ばしょ）、日時（じつじ）を確認（かくにん）の上（うへ）に見学（けんがく）ください。

桶川市文化財保護審議委員 内田 賢作

### 川田谷の獅子舞の上演

松原のささら獅子舞：10月5日(日)松原八幡神社（川田谷1329）

前領家のささら獅子舞：10月12日(日)王子農村センター（川田谷4378-1）

三田原のささら獅子舞：10月12日(日)三田原水川神社（川田谷2082）